



明るく たくましい 明世の子

# ビカリア

令和5年度  
瑞浪市立明世小学校  
NO. 3  
R5. 5. 30

## 仲間と考え、よりよい答えを見つけ出す

Mさんから「キャップをかぶりたい」という話を聞いたとき、これを子供たちに力を付けるチャンスにしよう、と考えました。そこで、思いを手紙に書いてもらいました。

校長先生へ わたしは毎日、小学校へ行くのが楽しいです。でも、一ついやなことがあります。それは、黄色い帽子のことです。わたしは、男の子がかぶっているキャップがかぶりたいです。なぜかという、女の子の帽子はわたしの好みではないし、キャップの方がかっこいいからです。わたしは、かわいいよりかっこいい方が好きなので、帽子は自分の好きな方をかぶれるようにしてほしいです。

この手紙をもとに、高学年の児童たちは次のような話し合いを行いました。

4年生では、大きく分けて下の3つの考えが出ました。

A:今のままでよい。 → 今までの伝統を大切にしたい。男女に並んだとき数えやすい。

B:キャップとハットから選べるようにする。 → 好きな方を選べる。黄色は安全。

C:色も形も自由にする。 → 自分の好きな色・形にできる。

Cに対する反対意見として、「暗い色は車から見えにくい。」「朝からキャラクターや帽子の話題ばかりになってしまう。」CやBに対して「仲間はずれができるかも。」「親が迷う。」という意見もありました。多面的な見方・考え方があり、話し合いの大切さを感じたようです。

「女の子がキャップを選ぶことがあるなら、男の子がハットを選ぶこともいいよね。」と担任が問いかけると、「え〜。」という声があり、少し間をおいてから「ああ、うん、そうだね。」「黄色で安全というのは一緒だから、自分の好きな方を選べばいいね。」という声があがりました。

5年生では、まず、通学用の帽子の意味を考え、黄色は遠くからでも見えることや熱中症予防にもなることを確認しました。その後、上の手紙について考えました。

同じA(今のまま)でも、理由が少し異なります。「B(選ぶ)にすると、少数の方は周りから何か言われるのではないか。」というものです。

Bとしては、「それぞれ個性がある。黄色は安全なのは変わらない。」「入学するとき兄の帽子がよいと思っていたので、女子の帽子でがっかりした。」というものがありました。

話し合いが進み、「男だから……、女だから……というのではない」「みんなちがって みんないい」「生まれた性と違って、自分は男の人がいい、女の人がいいという人もいる(性自認)。」「何か言われるという不安がなくなれば、Bでよい。」という考えが多くなりました。

6年生では、「今の帽子と違う型にした子が何か言われるから、変えなくてもよい。」という意見もありましたが、「何か言う子がいたら『人それぞれでいいんだよ』と教えてあげればいい。」という意見で、Bへの理解が深まりました。

5・6年でも、「男子がハットでも、スカートでもいいってことだよ。」との問いかけに、やはり「え〜」という声がありましたが、「女子がいいなら男子も」という考え方を受け入れることができました。

この話し合いの様子から、「黄色の通学用帽子のうち、キャップかハットかを選ぶようにしてもよい。」と判断しました。(低学年には担任から話します。)なにか問題が起きたら、高学年が教えてくれたり、また皆で話し合ったりして解決していくでしょう。「たくましい明世の子」に向かって力を付けつつあると思います。

6月1日から、通学用帽子の選択を実施します。家庭でお子さんと話し合って選んでください。

仲間と考えることや学校に行くことは楽しいと思う子が、さらに増えることを願っています。

